青森田中学園報

# こぶしの花

Kobushi no Hana

青森中央学院大学
青森中央短期大学
青森中央経理専門学校
青森中央文化専門学校
認定こども園
青森中央短期大学附属第一幼稚園
認定こども園
青森中央短期大学附属第二幼稚園
認定こども園
青森中央短期大学附属第三幼稚園
中央文化保育園
浦町保育園

撮　影：青森中央短期大学看護学科２年　山本 菜名

## 特集：青森中央学院大学看護学部開設記念行事

vol.91

目　次

翔麗祭
青森ねぶた祭り参加 ―― 2

特集：
青森中央学院大学
看護学部開設記念行事 ―― 4

**青森中央学院大学** ―― 6
・むつ土曜塾
・創立記念行事「ミニ運動会」
・前学期学位記授与式
・みちのく銀行と青森銀行との連携協定の締結について
・地域マネジメント研究所「ビジネスセミナー」開催
・大地連携ワークショップ参加
・国際交流センターより
・大学生観光まちづくりコンテスト
・ゼミ探訪
・私の１冊
・OB 通信
・学生記者発

**青森中央短期大学** ―― 10
・創立記念運動会
・「まるごと青森弁当2014」の販売
・幼児体育指導者検定
・卒業生との繋がり
・生活改善（おやつ等）教室
・カワイグレードテストを終えて
・Sessions on the arts 2014
・「野菜を食べよう推進大会」での展示参加
・先生の自分史
・研究室を訪ねて
・読んで欲しいこの１冊
・卒業生も活躍しています
・学生記者発

**附属第一・第二・第三幼稚園**
**浦町保育園　中央文化保育園** ―― 12
・行事アルバム
・先生達活躍しています
・読み聞かせたい一冊の絵本

**青森中央文化専門学校**
**青森中央経理専門学校** ―― 14
・青森中央文化専門学校×ドリームタウン ALi コラボレーションファッションショー
・夜の光に身を包んだファッションライブ
・青森西中学校職業体験
・「駅からハイキング」参加
・経理発信情報
・ファッション通信
・おススメ図書
・卒業生ピックアップ

**学園共通** ―― 18

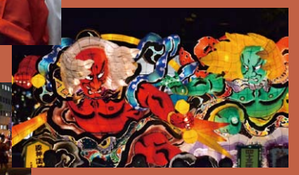


# 翔麗祭　テーマ：you（ユ） may（メ）　～あなたならきっと～

**9月13日（土）14日（日）開催**

（撮影：学生記者　須藤 友英・相馬 芹香・相馬 伽奈子）

子どもねぶた出陣



## 青森ねぶた祭り参加

青森中央学院大学ねぶた参加

# 特集 青森中央学院大学看護学部 開設記念行事

## 看護学部開設記念式典

７月４日に行われました青森中央学院大学看護学部開設記念式典では、来賓の方々から多くのご祝辞をいただき心より感謝申し上げます。看護学部第1期生の表情は希望に満ちあふれ、第１期生としての誇りと自覚が伺えました。

同日行われた玄侑宗久氏の記念講演「相補性から全体性への道～ホリスティックへの手がかり～」には一般の方の大勢の参加があり、会場となった921教室は満席となりました。

前日にはタイ王国チュラロンコン大学看護学部との学術交流協定が締結され、International Joint Conference in Aomoriも開催されました。今後も国際的な学術交流が図られることが期待されます。

（看護学部専任講師　松島 正起）

## 第１期生を代表して

私たちはこの佳き年に、多くの難関を乗り越え、四月に看護学部第１期生として入学することができました。新しい講義室や実習室、多様な学びのスタイルを取り入れた図書館など看護学を学ぶ意欲がさらに高まりました。私たちは、第１期生としての自覚と誇りを持ち、幅広い教養と豊かな人間性を備え、科学的根拠に基づいた技術を身につけ、常に看護に対する自己研鑽を続けられる看護師になりたいと思っています。

私は将来がんの専門看護師を目指しています。健康課題をもつ人を支えるチーム医療の中心となり、リーダーシップのとれる看護師になりたいと思います。また、本学の建学の精神である「愛あれ、知恵あれ、真実あれ」は、看護に深くつながる精神であると思います。この精神を深く心に刻み、一人ひとりの立場に立って考えられる看護師を目指して勉学に励みたいと思います。　（看護学部1年　相原 大成）

## 記念講演会を聞いて―相補性からの学び―

今回、玄侑宗久氏の講演を聞いて、特に心に残ったのは相補性についてです。相補性とはもともとの意味としてはニール・スボーアの発見で、波と粒子の2つは補い合っていて、波として、粒子としてみることによって全体が見えるという意味です。しかし我々の日常にも相補性は溢れていて、看護師と医師の関係にも当てはまるそうです。医師のようにある程度決まった健康への物差しを持った立場と、看護師のように患者のあるがままを受け入れる立場がいなければ患者は疲れきってしまうし、そもそも医療は成り立たないそうです。これは阿弥陀如来的考えでもあるようで、私はこの講演を聞いて、患者に寄り添ってあるがままを受け入れられるような看護師になりたいと思いました。今回の講演では専門知識のない我々にもわかりやすいように、実演を交えてくださったりして、とても楽しく、自らの人としてや看護の視点を養うことができたと思います。

（看護学部1年　深瀬 紘夏）

## インターナショナル・ジョイント・カンファレンス

今回、発表する機会を与えていただき、多くの学びを得ました。タイ王国の先生方の発表から、海外における看護教育のレベル・語学のスキルの高さを改めて実感するとともに、自身の研究を、多くの方々に理解していただくために必要な要素や姿勢についても、このカンファレンスで示されたと感じています。国際交流の盛んな本学でこその研究を今後進めていきたいと思います。貴重な機会をありがとうございました。

（看護学部准教授　三國 裕子）

大学ならではの研究発表の場を初めて体験しました。しかも、タイ王国で最も古い歴史を持ち、最高の名門校であるチュラロンコン大学看護学部とのカンファレンスという貴重な体験をすることができました。また発表はすべて英語で行われており、外国の方々との議論も視野に入れると、英語は必須な科目なのだと改めて痛感しました。今回の経験を大事にして、これからの大学生活を過ごしていきたいと思います。　（看護学部１年　関村 佳朗）

## フクロウモニュメント除幕式・記念植樹に参加して

看護学部開設記念として、フクロウモニュメント除幕式・記念植樹に、看護学部の1期生94名で参加しました。私は、知恵の象徴であるフクロウのモニュメントの除幕を担当しました。これから、このフクロウのモニュメントを見るたびに、初心を思い出すことができると思います。また、アカエゾマツ3本が植樹されました。

この木が成長していくとともに、自分たちも成長していき、看護学部全体も成長していくのだと期待が膨らみました。今回の除幕式・植樹に参加したことで看護学部の第１期生であることをなお一層強く感じることができました。第１期生として、今後学校が発展できるよう、そして現場で活躍できるような看護師となれるよう、頑張っていきたいです。

（看護学部１年　佐藤 弥咲）

## 看護学部開設記念パーティー

看護学部開設記念講演に引き続いてパーティが開かれ、青森市長をはじめ、たくさんの方々のご臨席とお祝辞を頂戴しました。祝宴は「愛」「知恵」「真実」の祝樽の鏡開きに始まり、看護学部学生による三味線の演奏や、青森中央学院大学ねぶた囃子方部による賑やかなお囃子、タイ、ベトナム、マレーシアからの留学生による美しい民族舞踊が花を添え、心に残る祝宴でした。青森県は全国1位の短命県、地域医療に貢献できる看護師はもちろんのこと、国際的視野を持った看護師の育成が求められており、当学に課せられた役割と期待の大きさを感じました。

（看護学部准教授　村山 志津子）

### 記念パーティーでの三味線演奏

本学看護学部第１期生として入学できたこと、看護学部開設記念式典パーティーという場で津軽三味線を演奏できたことを大変嬉しく、誇りに思います。

パーティー当日までは自分が演奏するという実感が湧きませんでしたが、本番では、今までにない緊張感と味わったことのない感動で、とても思い出に残るものとなりました。演奏後は沢山の拍手や大勢の方からお褒めの言葉を頂きました。

今回は短い演奏でしたが、看護の勉強の一方で、これからもっと津軽三味線の魅力を伝えていけるよう努力していきたいと思います。このような素晴らしい場で演奏させて頂いたことに本当に感謝致します。

（看護学部１年　野呂 知世）

青森中央学院大学

# 青森中央学院大学

## むつ土曜塾

むつ市と本学の連携協定に伴う事業の一環として、今年度から「むつ土曜塾」を実施しています。これは、むつ市内の小学生と本学の学生の交流を通して、異年齢交流・異文化交流を盛んにしようという目的で発足しました。

7月と10月に実施した土曜塾には、市内から大勢の小学生が参加し、盛況でした。土曜塾では、本学の留学生による中国語やベトナム語の講座、○×ゲーム等のレクリエーションを行いました。　何もかも初めてのことだったので、最初は不安だらけでしたが、帰り際に小学生達に言われた、「次はいつ土曜塾やるの？」という一言を聞き、土曜塾を実施できて本当に良かったと感じました。

ぜひ来年度も「土曜塾」プロジェクトを実施していきたいと思っています。地域の子ども達と交流してみたい、という学生の皆さんが大勢参加してくれることを楽しみにしています！！

最後に、土曜塾のプロジェクトのメンバーやボランティアに参加してくれた学生の皆さん、ありがとうございました。　（経営法学部2年　松木 大介）

## 創立記念行事「ミニ運動会」

今年のミニ運動会は天候に恵まれず、玉入れと障害物競走のみとなりましたが、どちらも白熱し、熱い戦いとなりました。自由参加ということで、看護学部、経法学部の個性豊かな皆さんが沢山参加してくれました。また、チーム戦ということで、コスプレをする学生もいて、頼もしかったです。

玉入れでは、籠の高さと玉のコントロールが重要となる中、女子チームが頭脳プレーを次々と見せてくれ、男子チームを追い込んでいました。それに負けまいと、男子チームは障害物競走で力を発揮してくれました。

そんな皆さんの一生懸命な姿を見て、運営を行った一員として、私はとても嬉しかったです。来年もみなさんの参加をお待ちしています！

（看護学部１年
大崎 恵実）

## 地域マネジメント研究所「ビジネスセミナー」開催

７月９日に当研究所と在札幌米国総領事館主催、青森商工会議所共催、公益財団法人青森学術文化振興財団後援により、アメリカ「ジョージ・メイソン大学」教授**ジャック・ゴールドストーン氏**を講師として**「世界を変えるメガトレンド～人口予測から読み解く21世紀の国際政治～」**をテーマとするセミナーが開催された。会場のネブタの家ワ・ラッセには80名以上の聴衆が参集し、講演に熱心に耳を傾けていた。

講演で、日本に関する部分としては今後、少子・高齢化が社会・経済に深刻な影響を与えることが避けられないため、その対策として、①女性労働力率の向上、②移民の受け入れ、③政治的には東南アジア諸国とのパートナーシップ構築の必要性などが指摘された。

フロアとの質疑応答では、移民政策に質問が集中し、移民労働者の権利の問題や、社会的課題として日本人が外国人と普通に付き合えるような状況が実現しなければハイスキルのワーカーの受け入れは難しいなどの指摘があった。

（地域マネジメント研究所長　岩船 彰）

## 大地連携ワークショップ参加

ＦＤ活動の一環である大地連携ワークショップに留学生３人が参加した。林景芃さん（地域マネジメント研究科2年）は、８月５日から８日まで、北海道釧路市阿寒町阿寒湖にて「阿寒湖周辺の森を活用した森の学校」で、グェン・ヴォ・フォン・リンさん（経営法学部３年）とファム・タイン・フォンさん（経営法学部３年）は、８月４日から８日まで、北海道沙流郡平取町にて「厳しい北海道の自然を生き抜いたアイヌの人たちの智恵から学ぶ」で活動をした。いずれのワークショップにおいても、初対面の学生同士でグループを組み、最後に成果を報告する事が求められた。留学生は彼女たちだけであり、苦労することも多かったようである。しかし、「改めて自然の偉大さと深さを身近に感じた」（林さん）、「自然と共存することを考えることができた」（リンさん）、「古い日本の文化について知ることができた」（フォンさん）との感想にみられるように、得るものも多かったようである。

## 前学期学位記授与式

今年度の秋季卒業生のための学位記授与式は、９月17日に713講義室において行われました。留学生12名、日本人学生５名、そして大学院生３名に対し、花田勝美学長より学位記が授与されました。歓送の言葉は、留学生のグェン・ヴォ・フォン・リンさん（ベトナム出身）によって述べられました。また、留学生のチン・リ・リン（マレーシア出身）さんによる卒業の言葉はゆっくり、正確で心のこもったものでありました。多くの参加者の胸を打つ感動的なものになりました。

10時半から場所をフリースペースに移して、祝賀会が催されました。そこで理事長から、この学年の留学生が入学した年は東日本大震災が発生し、日本に対する不安感・恐怖感のために留学を取りやめる人も多数出た年であったので、とくに思い出深いとのお話がありました。卒業生のスピーチでは、複数の人が東京で日系企業に就職を決めているとのアナウンスがあり、会場を賑わせました。

（学務委員長　小俣 勝治）

## みちのく銀行 青森銀行との連携協定の締結について

このたび本学は地域連携事業の一環として、地元金融機関2行と連携協定を締結しました。

連携協定は各金融機関と本学が互いに保有する知的・人的資源やノウハウおよびネットワークを有効活用し、地域の発展と産業の振興に寄与することを目的としています。

今回の連携協定は従来の包括的な内容ではなく連携範囲をある程度絞った、より実効性のある協定といたしました。具体的には、みちのく銀行との連携では、海外ビジネスの展開を計画している地元企業や地方公共団体等を支援するため、海外ビジネス情報の提供や現地プロモーション活動への協力等が主な内容となります。また青森銀行との連携では、健康・観光・食の3分野を軸として、ヘルスツーリズム、グリーンツーリズムや、地元食材を活用した新商品の開発等を展開することになっています。

今後は、それぞれの連携事業を継続しかつ具体化させることで、本学が地域の活性化に寄与できるよう努力していく所存です。関係者の皆様のご理解とご協力をお願いします。　（地域連携センター）

## 国際交流センターより

### 学術交流協定締結

○７月４日、青森中央学院大学看護学部はタイ王国チュラロンコン大学看護学部と学術交流協定を締結し、今後看護分野での交流や共同研究をしていくこととなった。

○７月15日、青森中央学院大学は、台湾・嘉義縣の呉鳳科技大学と学生交流・学術交流協定を締結し、交換留学や教育面などで協力していくこととなった。

### 海外留学プログラム　スタート

青森中央学院大学の６名の学生が語学学習やホームステイ、文化体験、ボランティア活動など、それぞれの目的をもって海外留学をした。

なお、出発前の7月29日には、学園独自の奨学制度である海外留学奨励費と日本学生支援機構の留学支援制度に基づく奨学金の授与式が行われた。

アメリカ：ベノブスコット語学学校（短期留学）　３名
　工藤 穂南（経法２）、野呂 知世（看護１）、
　百澤 友香（看護１）
タイ：泰日工業大学（短期留学）１名
　大澤　光稀（経法１）
タイ：モンフォートカレッジ
（短期留学）１名
　仁和　万里夢（経法２）
台湾：南台科技大学
（短期留学）１名
　鶴谷　麻実（看護１）

### 日本人学生チューター活動が活発化

留学生のサポートをする日本人学生チューター制度が平成25年度に始まり、平成26年度は12名のチューターが以下の活動に従事している。

・ウエルカムデスク開設
・たこ焼きパーティー開催
・ＦＳＡサークル主催新入生歓迎会、
　バーベキュー　大会に協力
・留学生の日本語授業へ会話パートナーとして参加
・大学紹介１分ＰＲ動画制作
・私たちの国を紹介しようプロジェクト　　など

## 大学生観光まちづくりコンテスト

全国の大学生が、対象地域の魅力を活かした観光まちづくりプランを競い合う「大学生観光まちづくりコンテスト」が、今年度、北海道・東北地域で初めて本県で開催された。本学からは７チームが参加し、２チームが本選へ駒を進め、９月23日、青森県立美術館においてプレゼンテーション発表を行った。

２チームは、農業体験修学旅行生を対象とした家族での里帰りツアー、道の駅を拠点としたまちなか散策とバーベキュー体験を組み合わせた観光プランをそれぞれ提案した。入賞は惜しくも逃したが、現地に足を運び考察を重ね策定したプランを多くの人の前で発表するという体験は、今後の成長の糧として残るはずである。

また、惜しくも本選出場を逃した４チームもポスターセッションに参加し、参加者との質疑応答や意見交換を行った。

## ゼミ探訪~寺井里沙ゼミ~ Vol.28

寺井ゼミでは、会社法の研究をしている。株主と企業の関係、取締役の権限等について学んでいる。企業の法律である定款はどのようにして作成・改正されるのか、株主総会ではどのように決議が行なわれるのか、取引において代表権がない人がさも代表権があると見せかけて取引を行った場合、第三者保護はどのように行われるのかというようなことを学生自身が調べ、発表している。そして、発表したことを基に事例問題を解くことで、ゼミ生全員に理解を促している。

また、バーベキューやスポーツの企画、学校行事の積極的参加によって、学年内はもちろん学年を越えて親睦を深めている。

社会に出るにあたり必要となる会社法を知り、さらに自身が調べた内容をまとめ・発表することで、レジュメの作成能力や分かりやすく人に伝える能力を向上させることができる。研究室を訪れて会社法のことを聞いてみると、勉強になることうけあいである。　（学生記者　新山 雅貴）

## 私の１冊

**経営法学部　太田 航平 先生**

**『燃えよ剣（上・下）』**

司馬遼太郎著（新潮文庫,1972）

私のおすすめの一冊は司馬遼太郎の「燃えよ剣」です。もともと歴史小説が好きで、特に幕末ものが好きな私ですが、この「燃えよ剣」はそのきっかけとなった思い出のある本です。

主人公は新撰組副長の土方歳三で、彼の一生を描いたのがこの小説なのですが、見所はなんといっても、土方のそのまっすぐな生き方です。特に大政奉還により政治状況が不安定になっている際に、友である沖田総司にいった「なあ総司、おらァね、世の中がどうなろうとも、たとえ幕軍がぜんぶ敗れ、降伏して、最後の一人になろうとも、やるぜ」というセリフは土方のひたむきで一本気な生き方を表しています。

最後の一人になって戦う意味などないにもかかわらず、一度幕府のために戦うことを決めた以上、最後まで戦うという土方の生き方は、誰しもが憧れる生き方だと思います。ぜひ、ご一読ください。

## OB 通信

拝啓　青森中央学院大学様

私は現在、外ヶ浜町役場に勤めています。仕事内容としては、町内に行事などを知らせる防災無線の放送、交通事故の掛け捨て保険である青森県交通災害共済組合（１日１円保険）の加入者取りまとめや見舞金請求等の市町村窓口業務、人権擁護・行政・消費者行政相談事務等を担当しています。

後輩の皆さんに伝えたいことは、「何でもチャレンジしてみる」ことです。いろいろなことにどんどんチャレンジしてみてください。バイトでもサークルでも資格取得でもいいと思います。就職の面接では、必ず学生時代の事をきかれます。今のうちに話の引き出しを増やしておくと就職活動時に落ち着いて面接試験に臨むことができます。また、経験したことはこれからの人生にプラスになることはあってもマイナスになることはないです。私も今では、「あのとき頑張れたのだから、これぐらい大丈夫！できる！」と思えるようになりました。

ぜひ、いろいろなことにチャレンジして学生生活を楽しんでください。

敬具

経営法学部10期生　田中 友子





## 突撃！教えて！先生 その6 石橋 嘉一先生に聞く

**── 専門科目は何ですか**

授業は、対人コミュニケーションなどの科目を担当しています。看護学科の授業では、医療の場でのコミュニケーションということで、患者さんとの関係など、より良い人間関係を築くノウハウなどを教えています。経営法学部では、ビジネスでのコミュニケーションということで、自分が企画したことを人に伝えることなどを教えたりしています。

**── 専門科目を学ぼうと思ったきっかけはなんですか**

小さい頃から人と話すことが好きで、特に大人の人と話すことが多かったです。中学生の頃は陸上部の主将として、練習を休む人の理由や、部員全員が一丸となって練習に取り組むにはどうすればいいかを考えるようになり、人間関係について興味を持ちました。そういうことがきっかけで、自分の考えや気持ちを伝えるために必要なコミュニケーションについて学ぼうと思いました。

**── 趣味は何ですか**

趣味は旅行です。特にバックパックと言って、リュックサックひとつで東南アジアや、ヨーロッパなど、様々なところに行くことが好きです。旅行先でゼリーを食べて食中毒にかかってしまい、本当に辛い思いをしたことが印象に残っていますが、今では楽しい思い出の一つです。

**── 学生の印象、学生へ一言をお願いします**

学生の印象は、実直で素直だと思います。学生へ向けて一言は、もっと自分の夢や欲望にガツガツして、主体的に動いて欲しいです。また、自分の見たことのない世界に触れる時間を作ってほしいですね。

**── 先生の今後の目標は何ですか**

研究に力を入れて、学会誌に自分の論文を載せていくことが今後の目標です。そしてそれをしっかり教えていきたいです。また、プライベートではトライアスロンにも挑戦したいです。そのために少しずつ体を鍛えていきたいと思います。

（学生記者
久保 咲絵・相馬 伽奈子）

## ～若者歩き～ Vol.7

今回紹介するのは、青森市浜館にある「ドラゴンカフェ」です。2階建ての広いカフェは、全体がとてもお洒落で落ち着いた雰囲気です。人気メニューのパスタとパンケーキは、ボリュームたっぷりで見た目も華やかで、特にパンケーキは学生に人気が高いそうです。季節によりメニューが変わり、旬の食材を味わうことができます。

店内には「ショパン」というお花屋さんもあり、花のいい香りがします。季節に合わせた雑貨もあり、母の日やクリスマスのプレゼントを購入するお客さんが多いそうです。テイクアウトできる惣菜やケーキ、ハンバーガーやサンドイッチもあり、気軽に立ち寄ることができます。

席が多いため長居もOK、またWi-Fiが利用できることから、おしゃべりを楽しむ人やパソコンで仕事をする人が多いようです。さらに携帯・スマートフォンの充電器やブランケットが用意されていて快適に過ごすことができます。ぜひ、足を運んでみてください。

営業時間11：00～23：00
年中無休・駐車場完備（50台）

（学生記者
豊島 絵里菜・相馬 芹香）

## ♪トレンドキャッチャー♪ Lv.7

夏が終わってあっという間にすっかり秋になりました。そこで今回のトレンドキャッチャーは青森県にある紅葉が望めるスポットの情報を紹介します。自然豊かな青森県だからこそ、秋の紅葉を楽しみましょう。

**八甲田連峰**

［色づき始め9月下旬／［最盛期］10月上旬～10月下旬

八甲田ロープウェイからの展望は360度です。津軽平野、陸奥湾、遠くは北海道までも見渡せます。（山頂付近：9月下旬から、山腹付近：10月上旬から、山麓付近：10月中旬から）

**城ヶ倉温泉、城ヶ倉大橋**

［色づき始め］10月上旬／［最盛期］10月中旬

城ヶ倉大橋は、全長360mの日本一の上路式橋です。八甲田連峰や岩木山はもちろん、青森市街地まで見渡せます。また、約120mの高さから望む城ヶ倉渓谷の紅葉は圧巻です。

**酸ヶ湯温泉、地獄沼**

［色づき始め］10月上旬／［最盛期］10月中旬

酸ヶ湯温泉は千人風呂と呼ばれる広さが80坪ある総ヒバ造りの大浴場が有名です。周辺には地獄沼があり、紅葉を楽しむことができます。

（学生記者　齋藤 景一）

青森中央短期大学

# 青森中央短期大学

## 創立記念運動会

5月31日に創立記念行事として運動会を開催し、玉入れ、二人三脚リレー、障害物競争、借り物競争の4つの競技で熱い戦いが繰り広げられました。学生からの声も聞き、学友会会員が一丸となって一生懸命、企画・準備に取りかかりました。

今年は「学科・学年を超えてみんなで盛り上がれる運動会にしよう」ということで、前年度までとはひと味変え、紅白に分けることにも挑戦してみました。ルールや点数なども変えたため、当日焦ったり、混乱することもありましたが、学生や先生方の協力のおかげで、新企画も成功し、大成功に終わることができました。

勝ち負けがあっても、クラスの仲間と協力し合えたこと、楽しく笑顔で過ごせたことは素敵な大学生活の思い出のひとつになったと思います。協力してくださった事務の方、先生方、そして学生の皆さん、ありがとうございました。

（学友会会長　田中 ひかり）

## 幼児体育指導者検定

本学が幼児体育指導者検定認定校となり２年目となりました。学生と現職の先生方がこれまでに94人受検し、全員が２級の認定を受けることができました。

検定は、３日間という短い期間で実施されるので大変ですが、その分受講者が「全員で合格しよう！」と団結し、お互いにアドバイスしあいながら、とても良い雰囲気で練習に取り組む姿が見られます。

２級を取得した現職の先生からは、「早速、検定で教えて頂いた野菜レンジャーのリズム体操を、子どもたちとやりました。みんな楽しんで踊っています！」といった声をいただきました。また学生からは、「２級を取ったことで自信が持てたので、幼稚園実習でマット運動にチャレンジしました。子どもたちが喜んでくれたので嬉しかったです！」という声がありました。

今後もたくさんの認定指導者を輩出していきたいと思います。

（幼児保育学科　鈴木 寛康）

## 食物栄養学科の学生考案による弁当第３弾「まるごと青森弁当 2014」の販売

産（イトーヨーカ堂）学（青森中央短期大学）官（青森県農林水産部総合販売戦略課）連携の「地産地消」の取り組みの一環として、食物栄養学科１・２年生が考案した弁当が、期間限定販売されて早三年目。今年もイトーヨーカ堂「青森フェア」期間中（9/10～15）に販売された。

「青森らしさのあるヘルシーな弁当」というコンセプトのもと、青森が連想できる食材を使用し、郷土料理を取り入れ、野菜を多く使い、エネルギー（622kcal）と塩分（2.2g）を抑える献立を学生が考案。メニューは「①貝焼き味噌風炊き込みご飯」「②ごぼうとリンゴのきんぴら」「③長いものいかメンチ挟み揚げ」「④ごぼうたっぷり鯖のさつま揚げ」「⑤大根と人参の煮物」「⑥ささげのでんぶ」「⑦リンゴ入りかぼちゃきんとん」「⑧リンゴのカシスコンポート」である。今回は減塩の工夫として、昆布や干ししいたけ、煮干しのだしの風味を利用した。

（イラスト：食物栄養学科２年　坂田 理奈）

## 卒業生との繋がり

ある日、施設に就職した卒業生より、行事の余興についての相談を受けた。施設では、年間の行事を計画し、担当する職員が試行錯誤しながら、如何に入所者・利用者の方々を楽しませるか奮闘している。このような状況の中、なんとか卒業生を応援したいと思い、専攻科の学生で出来ることがあれば、協力したいと申し出た。そして、誕生会の余興として専攻科の学生が『ダンスと白雪姫』を披露することとなった。

専攻科では毎年、介護老人福祉施設三思園の6月の誕生会において、余興を披露している。与えられた時間にどんな余興をするかは、学生が主体となり、企画・実践するスタイルとなっている。この経験によって、学生は少しずつお互いを理解する機会となり、団結力が生まれる瞬間でもある。

卒業生に学生の学びの場を提供していただいたことに感謝すると共に、卒業生一人ひとりが介護現場で中核となり、仕事をしている姿を見ることが出来たこと、また卒業生が、余興の時間に元気な顔と近況を話してくれたことが、私の活力となった。この繋がりを更に大切にし、未来を担う介護福祉士養成に努めたい。　（専攻科福祉専攻主任　片川 ひろえ）

## 「生活改善(おやつ等)教室」ための講師の派遣事業について

青森県は平均寿命男女ともワースト1位であり、その要因として肥満や喫煙、運動不足などの生活習慣が深くかかわっていることが指摘されています。とりわけ下北地域の児童・生徒の肥満傾向児出現率が高い状況等を踏まえ、下北教育事務所では生活習慣などの改善を図るため種々の取組を行っています。

各取り組みの一つに「子どもたちの健康な生活習慣の改善に向けた取組」があります。その取り組みの一環として、管内小・中学校の参観日等において親子を対象とした食習慣・生活習慣見直しのための「生活改善（おやつ等）教室」ための講師の派遣事業があり、青森中央短期大学食物栄養学科と青森県立保健大学栄養学科の教員が各学校に出向き講演を行っています。

実際の講演内容は、小学一年生から中学三年生と対象の習得知識の幅が大きく、普段短大生に講義している内容、表現方法とは全く違うのでそれぞれの先生は大変苦労しているようですが、良い勉強にもなっています。

（食物栄養学科　舛澤 正博）

## THE SESSIONS ON THE ARTS 2014/ 響感アート交流地点「ピアニカを楽しもう　松田昌公開ワークショップ」

今年のセッションは、日本でもっとも有名なピアニカ奏者松田昌先生をお招きし、初のワークショップの形で開催されました。当日は、保育園や幼稚園の先生だけでなく、ピアニカの愛好者から高校生まで50名ほどの方がご参加くださいました。

ピアニカを吹きながら登場したマサ先生に一同大拍手、軽快なトークを楽しみながらも、基本的な息の吹き方からピアニカの特徴やメンテナンスの仕方、合奏指導はもちろん随所に盛り込まれたマサ先生の超絶なピアニカ演奏まで、たくさんの魅力を堪能できる素敵な講座となりました。

今後も、可能性を秘めたピアニカの魅力を、音楽を愛する方々や教育現場の方々に広めていけたらと思います。　（幼児保育学科　前田 美樹）

## カワイグレードテストを終えて

本年度4月より、カワイグレードテストが本格的に導入され、幼児保育学科２年生全員がはじめてのグレードテストに挑みました。個々のレベルに合わせた課題曲に向き合い、これまで以上に熱心に練習し、本番に向けて自信をつけていく姿に、技術力・表現力の学びの確実な手ごたえを感じました。当日は、カワイ音楽教室からの審査員の派遣もあり、学生達は緊張の中で、それぞれの曲と真剣に向き合って得たことを精一杯表現していました。演奏が終了すると、会場は充実感と応援の拍手で満たされました。

今後も学生が音楽に心から打ち込める環境を考え、整えていきたいと思います。

（幼児保育学科　前田 美樹・木村 貴子）

## 「野菜を食べよう推進大会」での展示参加

8月31日の野菜の日にちなみ、青森県主催「野菜を食べよう推進大会」が、青森県立保健大学を会場として開催され、食育サポーター事務局および食物栄養学科の2ブースが展示参加した。

食育サポーター事務局は活動の紹介と、青森県の形の大きなボードに、県内でとれる農産物、海産物を配置するゲームを展示。それぞれの特産物が、なぜその地域で作られているのかなどの説明を交えたクイズゲームは、大人から子供まで楽しみながら参加していた。

食物栄養学科では、学生や学科で行っている食育活動を展示。今年で３年目となる「まるごと青森弁当」や公開講座の「クリスマス親子クッキング」の紹介を通し、野菜を多く取り入れる工夫や子供に野菜を喜んで食べてもらえるよう工夫したレシピを採用していることを紹介した。

その他、配布用のレシピや野菜にちなんだクイズも用意し、好評を博した。

## 先生の自分史「彩りの鮮やかさ」

**食物栄養学科　白取 敏江 先生**

自分史を書くにあたって自分の歴史を振り返ってみると、印象に残っている出来事は食べ物とセットになって記憶されていることが多々ある。まだ幼稚園に上がる前のこと、おでんの横に付いていた“からし”をゆで卵の黄身と勘違いして一気に口の中に頬張り大騒ぎしたこと。幼稚園の遠足の時、お昼ご飯だった“流しそうめん”を欲張って隣の子の分まで食べてしまい、先生に大目玉を食らったこと。小学校の給食の時、“焼きそば”がおいしくて、隣のクラスにまでおかわりを貰いに行ったこと。等々、挙げていくときりがないが、食べ物とセットになるとその時の様々な記憶も同時に鮮明に蘇る。

食べ物というのは、からだをつくるだけではなく、過去の記憶を蘇らせる力も持っているのかもしれない。（そして、いかに自分が「くいいじ」がはっていたか（いる？）ということも分かったが…）これからも、そんな力を持つ食べ物と関わりながら成長していきたいと思っている。

## 研究室を訪ねて　Vol.8

**～木村 貴子研究室～**

私たちの木村研究室では、様々な分野の研究を行っています。思春期、反抗期の親子関係の形成について、音楽療法が人間にどのような効果をもたらすのか、幼児画の可能性・芸術性を生かす保育について、国際交流の場を通じて子どもの繋がりを拡大するための研究、震災被害を受けた子ども達に対し期待できるファシリテーターの活動についてなど取り掛かる研究テーマは人それぞれです。研究テーマは異なるものですが、研究活動の際には意見を交換しあうなど7人がお互いに助け合っています。

木村研究室は担当教員の木村貴子先生の暖かく優しい雰囲気が滲み出る空間で、学生達は木村先生のサポート、指導を受けながら研究に取り組んでいます。　（幼児保育学科2年　玉熊 愛華）

## 読んで欲しいこの１冊

**幼児保育学科　時本 英知 先生**

**『生きることと自己肯定感』**

高垣忠一郎著（新日本出版社,2004）

みなさんは「自己肯定感」をもてていますか？巷で使われる「自己肯定感」には、自分のことが好きかどうかという「自己愛」で使われることが多々あります。「自分のことが好き」というと、どこかナルシスチックなニュアンスが伴い否定的な意味合いを感じる人も少なくありません。しかし、この「自己肯定感」をもつことは人としてとても大切なのです。この本では「自己肯定感」を「自分が自分であって大丈夫」という観点で捉え、その必要性について書かれています。また、私たちが住んでいるこの日本は「自己肯定感」を持ちにくい環境にあることが説明されています。

自己肯定感をもてない人は、「他人からどう評価されるか」が気になってしまいます。その結果、自分の気持ちや考えに従わず自らの行動や人生を選択し、知らないうちに自分自身を追い込んでしまいます。「自分が自分であって大丈夫」と思うことが難しい現代社会だからこそ、改めて自分と向き合うきっかけとしてみて下さい。

## 卒業生も活躍しています

**食物栄養学科42期生　青森市中学校給食センター勤務**

**伊東 玲美さん**

私は現在、青森市中学校給食センターに勤務し、2年目になります。仕事内容は、日々の現場の見回り、献立作成、発注、給食便りの作成、生徒への食指導などです。

勤め始めの頃は、教科書には載っていない、現場でしか分からないことばかりで、戸惑う事が多くありました。献立作成や食の指導など先輩方からのアドバイスを頂きながら、現在も勉強中です。周囲の方達にも恵まれ、青森市中学校給食センターで勤務することが出来て本当に良かったと思っています。

最後に、学生の皆さん課外活動に参加してみて下さい。自分の視野が広がり、進路に良い影響を与えてくれるはずです。同じ道に進む仲間と自分の進路に向かって勉強を頑張って下さい。





## キャンパス再発見～購買～ Vol.8

私たちは今回、皆さんから愛されている購買に注目しました。

今年度からスタッフや内装が変わり、商品の種類も増えたりと、購買の雰囲気が大きく変わりました。まず、お弁当ですが、それぞれの季節に合った食材を味わえたり、種類も豊富になりました。お菓子コーナーは毎週木曜日が新しい商品の入荷日のため、木曜日が狙い目です！学生の意見を取り入れていて、「あれが食べたい！」というような要望にも応えてくれるかもしれませんよ♪ちなみに私は、アイスのジャンボを入荷してほしいとお願いしたところ入荷して頂きました！また、寒い時期になると、レジ横に肉まんが登場します。心も体もあたたかくなりますし、私たちもおすすめするので、是非買って食べてみてください。

現在の購買は、利用する全ての人の理想と言っても過言ではないと思います。これからもどんどん進化し続ける購買に注目していきたいです！！

（学生記者
田中ひかり・矢田芳梨）

## １人暮らしのレシピ Vol.7

今回は夏にぴったりな夏野菜を使ったレシピをご紹介します。

夏野菜は体を内側から冷やしてくれるため、夏バテ防止に効果的です。夏野菜を効率よく摂って、残暑を乗り切りましょう！

**夏野菜の冷製パスタ**

【材料】（二人分）

パスタ160g・トマト２個・茄子１本・きゅうり１本・オリーブオイル大さじ３・麺つゆ（２倍濃縮）大さじ3・レモン果汁大さじ２・砂糖大さじ１・にんにく（すりおろし）１かけ・マヨネーズ大さじ２・ブラックペッパー少々

【作り方】

①きゅうり、ナスは半月切り、ナスは塩でもみ後３分放置し、流水で洗トマトは一口大の乱切りにする

②パスタはゆで時間より1分長く茹で上げ、流水で洗い氷水でよく冷やす

③ブラックペッパー以外の調味料すべてを合わせ撹拌し、切った野菜を軽く和え冷やしておく

④水をよく切ったパスタと野菜、ドレッシングを軽く和えて盛り付ける。仕上げにブラックペッパーを振り完成

パスタはカッペリーニなど細いものにすると味がよく絡みおいしくなります。暑い日にはぜひ作ってみてください。　（学生記者　太田 遥）

## 謎に包まれる寮生の生活 Vol.7

今回は、４つの学生会館が合同で行う交流会について注目してみます！

学生会館はこぶし会館、学術交流会館、国際交流会館、自適館の４つがあります。４月には新入生歓迎会、３月は退館される先輩方の卒業生を送る会が行われ、また夏や秋などに交流会が開催されます。自分が生活している会館とは違う会館の学生と交流を持つことができ、先輩後輩と垣根なく話すことができるのでとても楽しいですよ♪

交流会では日本の料理だけではなく、タイの料理等、何種類もの料理を味わうことができます。今年の９月に開催された交流会では、初めての外での企画ということで、屋台がたくさん並び、カップラーメン・お菓子すくいも学生に人気でした。さらに、学園オリジナルのマハチャノ・マンゴー味をはじめとした、各種ジェラートも食べることができました！自分でお肉やホタテを焼いたり、バーベキューのような楽しさも味わえたようです。

これからもみなさんが楽しい寮生活を送れるように、企画を充実させていくと思うので、ぜひ交流会にご参加ください♪

（学生記者：矢田芳梨・田中ひかり）

## 考シリーズ～勉強時間考～

みなさん、前学期のテストはどうだったでしょうか。皆さんは効率よく勉強するためにどうしていますか？そこで今回は、勉強時間について、朝方派・夜型派の調査をしました。

学生15名に調査したところ、朝方派が4名、夜型派が11名という結果になりました。

前者は、『夜は寝てしまうから』、『朝の方がスッキリしていて集中しやすいから』、『学校以外で勉強するのが嫌だから』などという意見が挙げられました。また後者では、『暑くて朝は勉強したくない』、『朝起きることができない』、『寝たらテストが散々な結果になりそうでこわいから』という意見が挙げられました。これらから、学生それぞれに自分らしい勉強の仕方がある事がわかります。

「できる人の勉強法」（安河内哲也著・中経出版）という本には、“寝る前に勉強したものを朝また勉強すると、記憶に定着する確率が格段に上がります。”という一節があります。試験前日で焦っているときほど効率よく勉強したいですよね。そこで試験前日は早めに食事などを済ませ、しっかり勉強し睡眠をとるのが良いでしょう。そして少しだけ早起きして、寝る前に勉強したところを見直してみたら、テストはこわいもの無しかもしれませんね。

（学生記者　田中 春菜）

# 附属第一・第二・第三幼稚園 / 中央文化・浦町保育園

## 待ちに待った合宿保育

７月17・18日、大学の体育館・グラウンド・附属第一幼稚園を会場にして、年長さん138名の合同合宿が行われました。初めてのお泊り保育で、みんなドキドキしたり、反面、ワクワクしたりの連続でした。１日目には８月２・３日のねぶた祭に参加するために、ねぶた絵に色付けをしました。また夜は、美しく夜空に咲き乱れる花火を鑑賞しました。

２日間、自分達の力を合わせて過ごした合宿は、思い出の1ページを飾ったことでしょう。

## 先生達活躍しています　第 13 回

### ママ先生として

認定こども園附属第三幼稚園

**嶋田 菜緒子**先生

幼稚園教諭となって今年で15年目になり、昨年度からはリーダーを務めています。現在は、クラス担任として子ども達と向き合ってきた日々から、園の行事や保護者対応・若い後輩職員の指導など、様々な責任とやりがいを感じながら日々を過ごしています。園には0歳児から5歳児までの子どもが在園し、集団生活の中で、これからを生きる力を子ども達が身に付けられるような指導に取り組んでいます。園の教育方針や子育てに対するアドバイスを保護者に発信し、思いに寄り添いながら一緒に子どもを育てていくことも大切にしています。

私自身もプライベートでは、２児の子育てに奮闘する毎日です。ママ先生として、子どもを育てる経験と子育てに関する悩みなどを保護者の皆さんと共有しつつ、積み重ねてきた経験を後輩職員にアドバイスしながら、園を利用する子ども達、保護者の皆さんに「第三幼稚園でよかった！」と思ってもらえるような幼稚園をめざしていきたいと思います。

### 保育士として

浦町保育園

**山口 真菜美**先生

私は、小さい頃から保育士になるのが夢でした。昨年は5歳児を担当し、無事に卒園を迎え、保育士としてのやりがいを改めて実感することができました。

保育士は日常生活において、頼られ、信頼関係を築いていきます。そして、できなかったことができるようになった時には、子ども達と一緒に喜びを味わうことができます。

今年は、４歳児を担当していますが、元気でパワフルな子ども達と楽しい日々を過ごす中で、“誰にでも優しくできる子”を大切にしながら保育しています。

これからも、子ども達の育ちを1番に考え、一緒に共感し、それぞれの成長・個性を最大限に広げられるように関わっていきたいと思います。

### 成長する姿を見て

認定こども園附属第一幼稚園

**倉内 葵**先生

附属第一幼稚園に勤務して2年目を迎え、昨年に引き続き年少児の学級担任となりました。入園当初は初めての集団生活に戸惑いや不安を見せていた子ども達も、今では「幼稚園楽しい！」と言ったり、お友だちと仲良く遊ぶ姿が見られるようになり、とても嬉しく思っています。

子ども達と園生活を一緒に過ごしていると“子どもから学ぶこと・気づかされること”がよくあります。一つのおもちゃから色んな遊び方を発展させたり、制作物や子ども達が描いた絵を見ると、その子なりのこだわりや個性が見られ、私の保育の学びに繋がっています。

幼稚園教諭の仕事は、日々の保育の他にもたくさんの業務があり、大変な思いをすることもありますが、子ども達の成長やかわいい笑顔を見るたびに勇気づけられています。

私自身子ども達と共に成長し、毎日笑顔あふれる楽しい園生活を送っていきたいと思います。

## 読み聞かせたい一冊の絵本

認定こども園附属第二幼稚園　**杉本 愛** 先生

**『かお かお どんなかお』**

柳原良平作（こぐま社,1988）

『かお かお どんなかお』はタイトルの通り、「楽しい顔」「すました顔」「いい顔」「辛い顔」「いたずらな顔」「泣いた顔」「怒った顔」「眠った顔」「たくましい顔」と、いろいろな表情が出てくる絵本です。

０～２歳の子ども達に読みながら実際にその表情をすると、子ども達からは、たくさんの笑いと拍手が出ます。何度も読んでいるうちに、子ども達も、その表情の真似をし始め、いつの間にか、お互いの顔を見て笑い合ってしまいます。顔には何がついていて、どんな表情があるのかと、自然に相手の気持ちを考え心を育むことができます。また、本を読みながら、子ども達とコミュニケーションを取れるステキな一冊です。

青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校

# 青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校

## 青森中央文化専門学校×ドリームタウンALi コラボレーションファッションショー

７月27日、青森中央文化専門学校は、青森市浜田にあるドリームタウンALiとコラボレーションし、スタイリングファッションショーを開催した。このイベントでは本校学生が、企画・運営・スタイリング・フィッターを担当。授業の一環として各共催テナント様に担当の学生が伺い、使用する衣装の選定や打合せを重ね、商品の効果的な演出方法やコメントを考案する等、スタイリストとしての技術を学んだ。

本番ではファッションに興味のある青森県内の中学生・高校生を中心に集まっていただいた公募モデル約50名に、完成したコーディネートをウォーキング形式で発表していただいた。悪天候の中でのファッションショーとなったが、たくさんのお客様にご覧いただき、大きな拍手で幕を閉じた。

（撮影：写真サークル部　工藤 祐希）

## 青森市立西中学校　職場体験

７月14日・15日の二日間、青森市立西中学校２学年の生徒が、総合的な学習の時間において青森中央文化専門学校へ来校した。

今回の来校は、自己の生き方や進路について主体的に選択し、考えることを目的とした職場体験である。ファッションの仕事に関すること、服飾制作について学び、実際にショートパンツの制作を通して、デザインから生地選び・パターンメーキング・縫製といった、服づくりの工程を体験した。また他にも、カラーコーディネート、ファッションデザイン画といった専門的な授業も体験した。

二日間を通し、どの授業においても、専門学校生と共に熱心に耳を傾け、一生懸命学ぶ姿勢が見られた。今後の就職・進路選択の参考となれば幸いである。

## 夜の光に身を包んだファッションライブ

９月14日、アートで音楽のあるまちづくりイベント「A-Paradise」に青森中央文化専門学校が参加した。これは、青森市に住みながら音楽や芸術分野において活動している方々が集い、広く市民の皆様にもまちなかでアート、音楽を楽しみながら触れ合ってもらおうというイベントである。

イベントは、ワ・ラッセ西の広場、八甲田丸前等の青森市ベイエリアを中心として開催され、ものづくりワークショップの他、幅広い年齢層の演奏者達で賑わっていた。青森中央文化専門学校は、「生物」、「MUSIC」、「四季」、「美」等様々なイメージからデザインした「improbable」（起こりそうもない/ありそうもない）をテーマとした衣装で出演し、イベントのフィナーレを幻想的な夜の光と共に飾った。

ファッションライブの企画、演出、構成、音響、モデル出演の全てにおいて学生が携わったことは、12月のファッションライブに向けて自信に繋がったことだろう。

## 「駅からハイキング」参加

私達、青森中央経理専門学校の観光情報サークルは、7月20日、JR東日本が主催する「駅からハイキング＆ウォーキングイベント　八甲田山雪中行軍の軌跡を辿る」に参加しました。参加した目的は、私達のサークルでプランを立てた企画が、JR東日本の「駅からハイキング＆ウォーキングイベント」の企画として今年の12月に実施予定となり、その勉強のためです。

参加人数は約80人の募集定員を充たし、県内外の若い女性からお年寄りまで多くの方々が参加されていました。駅を基点に地域の観光素材を楽しみながら歩くイベントと銘打つとおり、緑多い風景、はじめて知る青森の歴史の一部、参加者とのはずむ会話で、約6キロの距離を楽しみながら目的地へ辿り着きました。

とても充実したハイキングだったので、私達が主催する際にも参加者の方に満足していただけるようにプランを練りたいと思います。

（学生記者：観光情報サークル　船橋 綾音）

## 経理発信情報 Vol.12 ～サークル合同　キャンパス内ゴミ拾い～

７月29日、青森中央経理専門学校のボランティアサークルとバドミントンサークル、2サークル合同によるキャンパス内ゴミ拾い活動を実施しました。毎日利用しているキャンパスの利用は、私達学生だけではありません。地域住民の方々や学生以外の利用者の方々が気持ちよく利用していただけるように、社会貢献の一環として実施しました。

今年度初めての実施ということと、30度を超える暑さの中、みんながうまく動けるか心配な点もありましたが、一人一人が集中してゴミを拾ってくれたおかげで、ゴミ袋2つ分のゴミが集まりました。集めたゴミの中には、折れた傘、折れて使えなくなった自転車の空気入れなどの大きなゴミも多く落ちていました。

今回のゴミ拾いを実施したことで、ゴミのポイ捨てに対する意識が少しでも変わってくれたらと感じました。（学生記者：バドミントンサークル　中田 栞）

## おススメ図書 vol.11

青森中央経理専門学校　**鈴木 伸吾 先生**

**『最後のプレイボール～甲子園だけが高校野球ではない～』**

岩崎夏海監修（廣済堂出版 ,2014）

数年前のヒット作「もしドラ」の岩崎夏海さんが監修した、ノンフィクションです。

日本全国で本当にあった、高校野球をとりまく選手・監督・マネージャー・レポーター等22のエピソードを集めています。

一夏に全国で４千を数える地方予選それぞれにドラマがあり「甲子園は巨大な挫折の祭典」とうい言葉が印象的でした。

挫折や失敗に耐えながらも前を向き、困難な試練に立ち向かってそれを乗り越えようと必死でもがくリアルなストーリーを読むと、当たり前に生活できる幸せ、喜びや好きなこと目指すものがある喜び、周りへの感謝を改めて感じることができると思います。

数年前まで高校生だった本学園の学生におススメの一冊です。遠きに仰ぎ見ていた高校野球は、年下がプレーしている。今だからこそ感じる意識があることでしょう。意識が変われば行動が変わることと思います。

## ファッション通信　vol.11

### ～2014 秋冬　レトロ×活動性～

今季は、ボンディングなど様々な種類のメッシュ素材がおすすめ！

直線的なラインによる切り替えなどディテールにこだわったワンピースでエレガントなスタイルに挑戦してみてはいかがですか？

レトロを感じさせるディテール、滑らかな表面感やカーブで形成されたシルエットでありながら、快活な日常感があるスポーツムードのスタイルを提案します。

色はアウトドア・ナチュラルを感じさせる赤松色や琥珀色などで、暗くなり過ぎないスタイリングが効果的です。

（記事・デザイン画：文化編集部サークル）

## 卒業生ピックアップ No.23

**青森中央経理専門学校　平成25年度卒業**

**一般財団法人双仁会黒石厚生病院(医療事務) 勤務　工藤 歩さん**

私は現在、黒石市の黒石厚生病院で、医療事務員として働いています。在学当時、医療事務コースで専門的に学びましたが、働いてからも毎日覚えることは沢山あります。また、患者さんと接する機会が多く、忙しい毎日を送る中で、仕事の達成感を感じることが何より嬉しいです。

解らないことがあれば直ぐにメモを取り、覚えるために必死で過ごしているうちに、あっという間に半年が過ぎました。仕事は大変ですが、自分の頑張りを評価し、認めてられることで、更に頑張ろうという気持ちになります。そして、専門学校で学んだキャリア科目、医療秘書の勉強は、社会人の基本としてとても大切だと、今、改めて感じます。

後輩の皆さん、就活は大変ですが、焦らず自分のやりたいこと、目標を何でもいいので持ち、自分のペースで進めることで、頑張った分は自分に必ず返ってきます。諦めずに頑張って下さい。

# 学園共通

## 学生公演　　12月20日開催！

### Bunka Fashion Live 2014

今年度のテーマは「fiction」。作り事や虚構をキーワードに様々なイメージからデザインを考案。それらがリンクする瞬間、ありそうもない世界が生まれる。唯一の存在となる製作衣装の数々が人間の創造力や新たな可能性に挑戦するファッションショーです。同日開催の展示ブースでは、ファッション甲子園入賞作品および県内高校最終選考会へ出場した作品の展示も行います。

また、ファッションに興味がある方をモデルとして公募します。詳細は、本校ホームページをご覧ください。ご応募、お待ちしております。

### 開催情報

日時：12月20日(土)　①12:30～　②15:30～
会場：フェスティバルシティアウガ5階　AV多機能ホール

### 青森中央短期大学幼児保育学科 44 期生 卒業記念公演 ミュージカル「星の王子さま」

今年度のミュージカルの演目は「星の王子さま」。幅広い年齢層に愛される哲学的な童話として知られており、シナリオ制作では学生監督を中心に試行錯誤を重ねてきました。「心～きみとすごした時間～」をテーマに、身体、音楽、造形表現の集大成として創り上げた本作品は、色彩の豊かさや歌で綴られる心情が印象的な美しい作品に仕上がりました。

絆とは、愛とは、幸福とは何か。私たちのミュージカルを通して感じていただけたらと思います。

### 公演案内

①12:30～ ミュージカル／14:00～ Fashion Live
②15:30～ Fashion Live／16:30～ ミュージカル

## 青森県サイクルツーリズム推進協議会設立

今年の７月に青森県サイクルツーリズム推進協議会が設立され、本学が協議会の事務局を担当している。その第1回目の主催イベント「Aomori Cycle Tourism キックオフフォーラム」が９月20日に開催された。当日は、サイクリングツーリズムに関するトークショーが開催され、サイクリング・ファッションショーや県下の各アマチュアチームのコスチュームコンテストも繰り広げられた。コンテストでは、青森中央文化専門学校が演出・運営を担当し、華を添えた。また、別会場には1台数百万もするクラシック自転車が数多く展示され、自転車関係企業などのPRブースも設けられた他、会場のワ・ラッセ周辺ではナビチャリやストライダーの試乗会も行われた。

この複合フォーラムの翌日には八甲田グランファンドが開催され、数多くのサイクリストが八甲田山のヒルクライムに挑戦した。

このフォーラムを契機として青森県のサイクルツーリズムの機運は高まっていくと見られており、本学にもサイクリング部が創部される予定である。

（経営法学部教授　内山 清）

## 教職員対象研修会

９月17日、学習支援センター主催の教職員対象研修会が行われ42名の学園教職員が参加した。今回のテーマは「緊急時の対処法」である。講師は健康管理室の千葉徳子先生、後半部分の「心肺蘇生法・ AEDの使用法」については看護学部の木村千代子先生が担当した。

まず前半は、てんかんや過呼吸、熱中症など授業中でも起こりうる事態への対処法と、打撲・捻挫・脱臼・骨折などの緊急事態が学内で起こった場合の対応について、千葉先生がパワーポイントを通じてわかりやすく説明した。

AEDを用いての実際の心肺蘇生法、心臓マッサージ体験では、最初は緊張していた教職員も、次第に汗を流しながら熱心に取り組んでいた。また、学内４か所に設置されているAED設置場所の確認などが行われ、木村先生への質問も活発に行われた。

# 開催行事案内

## 青森中央学院大学・青森中央学院大学大学院

●公開連続講座「わが郷土の歴史・産業・文化等について学ぶ」　会場:学術交流館

| 日　時 | | テーマ | 講　師 |
|---|---|---|---|
| 11月　5日(水) | 13:00～14:20 | ダービー馬をめざして | 諏訪牧場代表取締役　諏訪 豊蔵 氏 |
| 11月12日(水) | 13:00～14:20 | 真心に生きた新聞人・陸羯南 | 東奥日報社編集委員室長　松田 修一 氏 |
| 11月19日(水) | 13:00～14:20 | 経営戦略としてのワークライフバランス実現とダイバーシティ推進 | みちのく銀行取締役会長　杉本 康雄 氏 |
| 11月26日(水) | 13:00～14:20 | 演劇とコミュニケーション | 劇作家・演出家・青森県立美術館舞台芸術総監督 長谷川 孝治 氏 |

●市民公開講座「これからの高齢社会をどう生きるか～老後を活き活きと生きるために～」　会場:学術交流館

| 日　時 | | テーマ | 講　師 |
|---|---|---|---|
| 11月15日(土) | 13:30～15:00 | 認知症の人と上手につきあうには | 青森中央学院大学看護学部教授　山田 皓子 |

●地方自治特別フォーラム「分権時代の首長、議会の役割～青森から政治と行政の質を変える～」　会場:学術交流館

| 日　時 | テーマ | 講　師 |
|---|---|---|
| 11月29日(土) 14:00～17:20 | 【基調講演】分権時代の首長、議会の役割 | 早稲田大学マニフェスト研究所所長　北川 正恭 氏 |
| | 【先進事例報告】<br>今こそ問われる地方議会のあり方<br>～議会改革度ランキング全国最下位を脱出するために～ | ①岩手県久慈市議会議長　八重樫 友夫 氏<br>②岩手県滝沢市議会議長　黒沢 明夫 氏 |
| | 【パネルディスカッション】<br>最小の費用で最大の効果をあげる自治体組織のあり方<br>～首長のリーダーシップと人材マネジメント～ | 【パネリスト】<br>弘前市長　葛西 寛之 氏<br>むつ市長　宮下 宗一郎 氏<br>早稲田大学マニフェスト研究所所長　北川 正恭 氏 |

**青森中央学院大学同窓会のご案内**
■日程：11 月 29 日（土）　■時間：18：00 ～　■会場：青森国際ホテル
●卒業生の皆様のご参加お待ちしています。

## 青森中央短期大学

●公開講座

| 日　時 | | テーマ | 会　場 |
|---|---|---|---|
| 12月　6日(土) | 10:00～12:30(9:50集合) | クリスマス親子クッキング | 1号館2階 調理実習室 |

●トータル介護アドバイザー青山幸広の活き活き介護

| 日　時 | | 講　師 | 会　場 |
|---|---|---|---|
| 11月17日(月) | 18:00～19:30 | ケアプロデュース RX 組代表　青山 幸広 氏 | 弘前商工会議所 2階大ホール |
| 12月22日(月) | 14:00～15:30 | | ユートリー 8階中ホール |

## 青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校

●公開講座　会場:学術交流会館934教室

| 日　時 | | 内　容 |
|---|---|---|
| 11月　1日(土) | 10:00～12:00 | 学生によるパソコン教室　年賀状作成 |

## 認定こども園附属第一幼稚園・第二幼稚園・第三幼稚園　中央文化保育園　浦町保育園

●幼稚園平成 26 年度入園願書受付　11 月 1 日（金）より各園にて随時受付
●イルミネーション点灯式　今年も恒例のイルミネーションを行います。光の競演をどうぞお楽しみください。
■点灯期間　12 月 1 日～ 1 月まで　■点灯時間　16：00 ～ 20：00

# 学生プロジェクト支援制度認定事業決定

今年度より新たに始まった学生プロジェクト支援制度ですが、この度、厳正なる審査を経て、助成対象となる認定プロジェクトが決定されました。制度には９事業からの応募があり、そのうち６つの事業が認定プロジェクトとして採択され、活動資金の助成を受けることとなりました。

「地域の教育支援」や「スポーツ教室の開催」、「地域文化の振興」など、事業内容は多種多様に亘りますが、いずれの事業も学生の主体性とパワーが核として期待されるものばかりです。

「やりたいことを、カタチにする。」

事業達成に向けて取り組む学生達に、皆様からのあたたかい応援をお願いします。

**学生プロジェクト支援制度二次募集**
**募集期間：10月31日(金)～11月14日(金)**
**詳しくは、学習支援センター（担当：古山）まで**

## 「こぶしの花」掲載写真募集！

こぶしの花編集委員会では、「こぶしの花」（表紙）に掲載することを目的に、写真作品を募集しています。現在、２月発行予定の92号表紙掲載写真を募集中です。学園内の風景を題材に、皆さんの力作をお待ちしています。

■92号応募締め切り：12月19日
■応募先メールアドレス：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp
※応募の際、メールの表題には「こぶしの花写真応募」、メール本文には「学部学科・学籍番号・氏名・（電話番号）」を記入してください。
※本応募は、投稿の資格は青森田中学園在学生が撮影した未発表作品に限ります。
※本応募に関するご質問等は、こぶしの花編集委員会までお問合せ下さい。
お問合せ先：kobushiphoto@aomoricgu.ac.jp

携帯から応募の際は
コチラをご利用下さい

青森田中学園報「こぶしの花」第91号
発行日：2014. 10.25
発　行：学校法人　青森田中学園
〒030-0132　青森市横内字神田12
ＴＥＬ：017-728-0131
ＦＡＸ：017-738-8333
http://www.aomoricgu.ac.jp
http://www.chutan.ac.jp

「こぶしの花」編集委員

編集長　加藤　澄
松島　正起　浜中　幸美
木村　貴子　佐藤　紋子
坪谷　輝子　赤坂　敦子
岩葉　悦子　高橋　晴美
中田　尋美

学生記者
久保　咲絵　相馬伽奈子　新山　雅貴
齋藤　景一　須藤　友英　豊島絵里菜
相馬　芹香　太田　遥　田中　春菜
田中ひかり　矢田　芳梨